インセクトピア
Insectopia 蟲の報せ
issue Nov. 2026 vol. 044
【Insectpia（インセクトピア）】とは：insect（虫）とutopia（理想郷）を掛け合わせた造語
『蟲たちを含む、地球上に生きる全ての仲間が快適に生きることができる世界』を創るため、SHELLグループがお届けする情報発信ニュースレター。



なぜ都市のネズミは減らないのか

再開発が進み、清潔で快適な街へと変化を続ける都市。しかしその一方で、ネズミによる被害相談は後を絶ちません。その背景には、私たちがつくり上げてきた都市環境があります。今回は、東京都や海外都市の事例を通して、ネズミの問題と環境管理の関係について考えてみます。

都市がネズミにとって快適な3つの理由

都市には飲食店や住宅、オフィスなどが集中し、一年を通して安定した食料が存在します。また、天井裏や地下空間、倉庫などの隠れ場所も豊富です。さらにネズミは繁殖力が高く、条件が整えば短期間で個体数を増やすことができます。

東京都でも進むネズミ対策

都市部におけるネズミの問題は、衛生管理上の重要な課題です。東京都は「東京都ねずみ防除指針」を策定し、区市町村や事業者と連携しながら対策を進めています。対策は駆除だけでなく、発生状況の把握や環境改善、普及啓発などを組み合わせた総合的な防除が重視されています。

東京都内では、行政と地域が連携したネズミ対策も進められています。中央区では、蓋付きごみ箱の活用や排出ルールの見直しなど、ネズミが生息しにくい環境づくりを推進しています。こうした取り組みは、駆除だけでなく発生予防の観点からも重要視されています。

また東京都の防除指針では、品川区における福祉・建築部門との連携や、大田区における普及啓発活動、港区における再開発や建物解体時のネズミ対策などが事例として紹介されています。
ネズミ対策は衛生部門だけでなく、まちづくりや建物管理とも密接に関わる課題となっています。

「東京都ねずみ防除指針」の詳細はこちら→

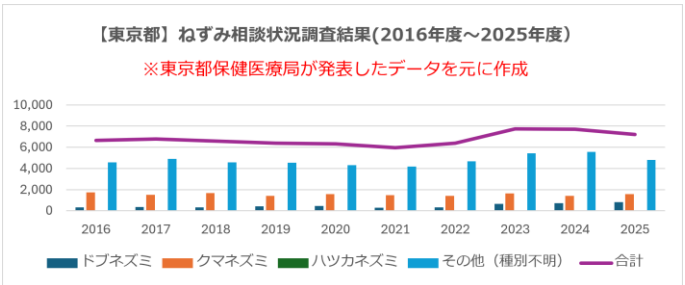
世界の都市でも共通する課題

ネズミの問題は日本だけではありません。アメリカ、イギリス、フランスなどの大都市でも継続的な課題となっています。
アメリカでは、ネズミによる建物被害や食品汚染などが社会課題となっており、気温上昇に伴う個体数増加も指摘されています。
また、イギリスやフランスでは、老朽化した下水道や都市インフラ、ごみ管理の問題などがネズミの生息を支える要因の一つとされており、各都市で対策が続けられています。

ネズミを減らす鍵は「環境管理」

ネズミの問題への対応は、「発生した個体を駆除する」ことから、「発生しにくい環境をつくる」ことへと変化しています。餌や隠れ場所、侵入経路といった発生要因を見直し、問題を未然に防ぐことが重要です。

ネズミの存在は、都市環境の変化や私たちの生活習慣を映し出す一つのサインともいえます。生きものと環境のつながりを理解し、発生要因そのものに目を向けることが、持続可能な都市づくりへの第一歩となります。



発刊：8thCAL 株式会社　／　監修：シェル商事株式会社
お問合せ：insectopia@8thcal.design（担当：村上）

最新の知見を現場へ

国内外の学会・業界大会から学ぶ

害虫管理を取り巻く環境は年々変化しており、最新の知見や技術を継続的に学ぶことが欠かせません。シェルグループでは、国内外の学会や業界大会へ積極的に参加し、情報収集に取り組んでいます。

先月10月は、海外最大級の害虫管理業界イベントであるNPMA PestWorld 2026と、国内の研究者・実務者が集うペストロジー学会長崎大会へ社員が参加しました。今回は、それぞれの大会についてご紹介します。

NPMA PestWorld
NPMA（全米害虫管理協会）が主催する国際大会で、世界各国の害虫管理事業者や研究者、関連メーカーが集いました。最新の防除技術や機器、デジタルツール、衛生管理に関する講演や展示が行われ、世界のペストコントロール業界の動向を知ることができる貴重な機会です。
シェルグループでは、近年、海外大会への参加を継続しており、国内ではまだ普及していない考え方や技術についても積極的に情報収集を行っています。

日本ペストロジー学会
日本ペストロジー学会は、害虫・害獣の生態や防除技術、衛生管理などについて研究者と実務者が知見を共有する学術団体です。
今回の長崎大会では、最新の研究発表や事例報告が行われ、現場での課題解決につながる多くの情報が共有されました。学術的な研究成果と実務現場を結びつける場として、業界にとって重要な大会のひとつです。


画像：日本ペストロジー学会 長崎大会 会場（ベネックス長崎ブリックホール）

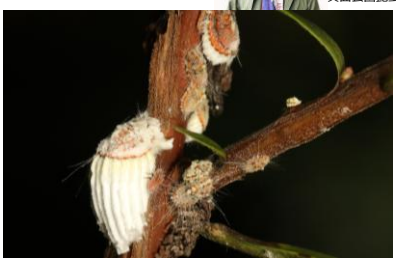
世界とつながる学び
今回参加したNPMA PestWorldやペストロジー学会をはじめ、シェルグループは国内外の学会や業界大会へ継続的に参加し、最新の研究成果や業界動向の把握に努めています。

こうした活動は、国内外の最新知見を収集するだけでなく、より効果的な予防的害虫管理の実践につなげることを目的としています。
これまでFAOPMAや各地の事例に触れるなかで、世界のペストコントロール業界が『事後対応』から『予防』へと軸足を移しつつあることを、シェルグループとして強く感じています。

害虫問題は地域によって異なる一方で、都市化や気候変動、衛生管理といった共通の課題も多く存在します。発生しにくい環境づくりを実現するためには、多様な事例や研究成果から学び続けることが重要です。

今月のInsect


写真/解説
中峰 空
8thCAL技術顧問
箕面公園昆虫館館長



イセリアカイガラムシ
（イセリア介殻虫）
カメムシ目ワタフキカイガラムシ科
学名：*Icerya purchasi*

明治期に日本に侵入したとされるオーストラリア原産の外来種。過去に柑橘類に甚大な被害を与えたが、同じくオーストラリア原産のベダリアテントウが導入されて以降ほぼ制圧された。これは天敵による生物防除が成功した事例だと考えられている。

Information

●Pick up NEWS
【species記事更新】
中井祥子（ジョニー）さんインタビュー
『「ちゃんと生きて、ちゃんと死ぬ」を遊びからつくる―地域と共に育つ場所のデザイン』 公開。
※species（スピーシーズ）
生物多様性や都市環境などを、横断的に見つめ直すインタビューサイト

●Pick up EVENT
ちよだ環境フェア
日時：2026年11月7日(土)10:00～16:00
会場：東京都千代田区九段南1-2-1（千代田区役所）
※入場無料／申込不要

Insectopia インセクトピアの配信登録はこちらから！
QRコードを読み取り後、登録フォームよりご登録ください。
ニュースリリースや採用情報、イベントなどの最新情報を配信中です。

発刊：8thCAL 株式会社　／　監修：シェル商事株式会社
お問合せ：insectopia@8thcal.design（担当：村上）